

年譜

- 1909年 東京都牛込区矢来町で生まれる。本名奎介。4人兄弟の末子。
- 1914年 父徳助死亡。
- 1926年 東京高等学校に入学。美術部で油彩画を描き始める。在学中に社会主義思想の影響を受け、ハルビンに潜入している。
- 1931年 京都帝国大学文学部選科に入学、英語英文学を専攻するも、大学にはほとんど出席せず、下宿で絵を描いていたという。
- 1933年 京都帝国大学を除籍となる。映画のスーパーインポーズの翻訳の仕事をしたり帝国ホテルの通訳をしたりしていた。
- 1935年 米国ダラー汽船副社長テニーの誘いで、ロシア、ドイツ、フランスを巡遊する。
- 1936年 南仏グルノーブル近郊のフランドランのアトリエで起居を共にし師事する。第6回独立美術協会展に「湯の山」を出品、初入選。滞欧作品展開催。
- 1937年 独立美術協会第7回展に「フランダース古城」「ノルマンディの秋」を出品、児島善三郎の隣に展示される。この頃三岸節子と知り合う。
- 1938年 独立美術協会第8回展で協会賞受賞。日動画廊で第1回菅野圭介洋画展開催。
- 1940年 独立美術協会会友に推挙。
- 1941年 独立美術協会第11回展でI氏賞を受賞。
- 1942年 独立美術協会第12回展で岡田賞を受賞。
- 1943年 独立美術協会第13回展で会員に推挙される。郡司定子と結婚。
- 1944年 12月の空襲で多数の作品が焼失。水戸に転居。六人展（児島善三郎、野口弥太郎、中川紀元、川口軌外、佐野繁次郎、菅野圭介）に出品、以後1952年まで続く。
- 1945年 徴兵され横須賀に配属されるがほどなく除隊。茨城県鹿島郡諏訪村勝下の海岸の小屋をアトリエとする。
- 1946年 第1回新興日本美術展に出品、小泉清と共に読売賞受賞。
- 1947年 小樽、札幌を旅する。2年館間中断していた独立展が再開される。
- 1948年 3月、妻定子と離婚。7月、三岸節子と“別居結婚”を発表。
- 1949年 伊東に転居。北荘画廊で個展開催。名を「圭哉」と改める。
- 1950年 静岡県安良里に転居。
- 1952年 アメリカ、フランス、ヨーロッパを旅行。暮れに近作個展開催（銀座兜屋画廊）。
- 1953年 大阪梅田画廊にて個展開催。10月、三岸節子との別居結婚を解消。藤沢に転居。
- 1954年 須藤美玲子と結婚。「恵介」と改める。
- 1955年 独立美術協会展の展示方法をめぐり会員の意見が対立する。関西、九州を旅行。
- 1956年 2年間転居を繰り返す。
- 1958年 腎臓結石で入院、手術。
- 1961年 葉山にアトリエを新築。独立美術29回展に「秋」「野菜車」を出品。
- 1962年 栄養不良で倒れる。入院、手術。11月退院。
- 1963年 3月、慶応病院にて食道癌のため死去。享年53。葬儀は独立美術協会葬として営まれる。妻美玲子も2ヶ月後にあとを追った。独立美術協会第31回展に7点が特別展示される。
- 1990年 「幻の異色画家展Ⅰ 伊藤久三郎・菅野圭介・藤井令太郎」大川美術館にて開催。「浪漫の画家 菅野圭介展」美術研究藝林にて開催。
- 1995年 「匂いたつ色彩の詩 菅野圭介展」平塚市美術館にて開催。
- 2005年 「浪漫の画家 青木繁と菅野圭介展」東御市梅野記念絵画館・ふれあい館にて開催。
- 2006年 「浪漫の画家 青木繁と菅野圭介展」北九州市旧門司税関開催
- 2010年 「色彩は夢を見よ 菅野圭介展」4館巡回展開催。（横須賀美術館・一宮三岸節子記念美術館・三浦美術館・東御市梅野記念絵画館）



哲学の橋



立秋 (ハイデルベルグ)



白都利オ



蔵王



花



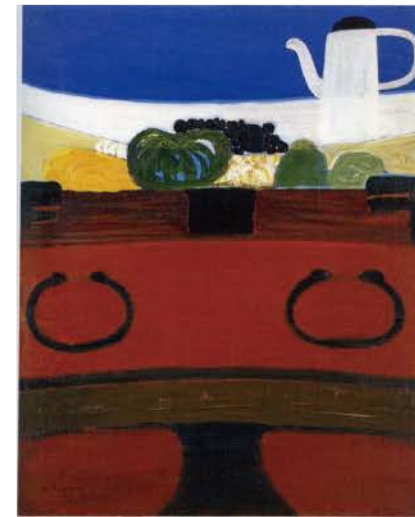
山脈



海



卓上静物



タンス